

社団法人組込みシステム技術協会

平成 21 年度事業計画書

自 平成 21 年 4 月 1 日
至 平成 22 年 3 月 31 日

【 目 次 】

I. 総 括	1
II. 事業計画	3
III. 支部事業計画	9

I. 総括

世界中が経済不況と新型インフルエンザの恐怖に翻弄されている。
特に外需に依存した産業構造の日本経済は、製造業を中心として深刻な状況にある。

産業経済全般では押しなべて底を打った感があるものの、冷え込んだ状況を一気に好転させるほどのものはない。

当会を取り巻く経済環境も同様に苦境の時代をどう生き抜くか、会員企業においてはサバイバル戦が当分の間続くものと予測せざるを得ない。

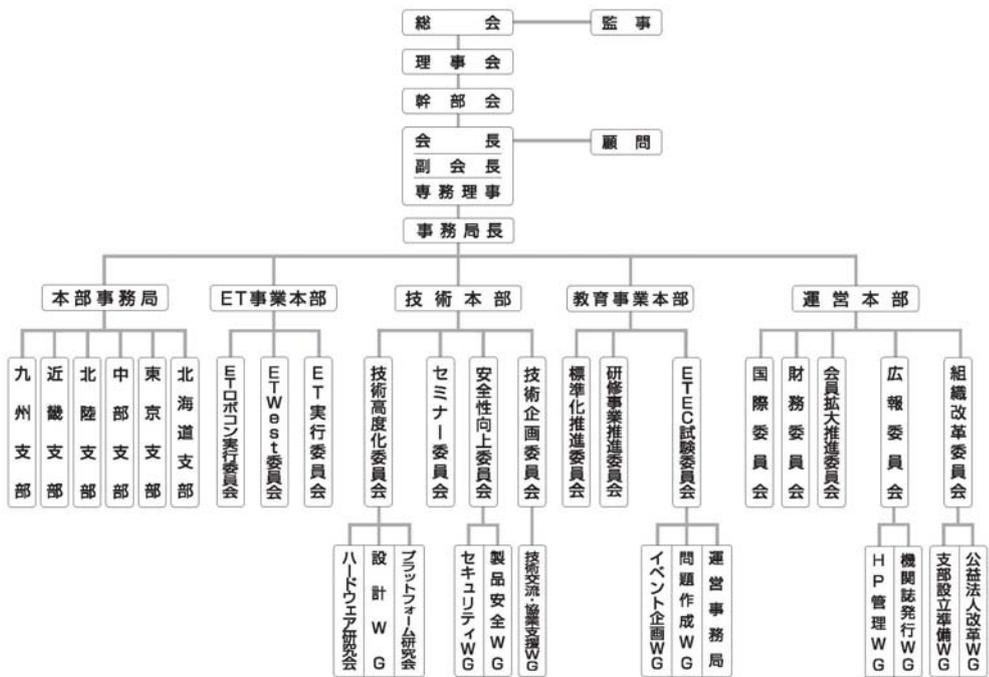
当会は組織の充実を図る一方、人材育成、技術力の涵養、経営基盤の拡充などに注力し事業展開を図っていく。

以下に平成 21 年度事業計画の概要を示す。

平成 21 年度重点事業項目

1. **組織の拡充改革を実施**
2. **ETWest2009（組込み総合技術展関西）の開催**
3. **ET2009（組込み総合技術展）の開催**
名実ともに世界を代表する組込み技術専門展に発展した「ET」。また、関西唯一の技術展「ET West」共々、規模内容を拡充して開催する。
4. **組込みソフトウェア技術者試験（ETEC）の実施、普及等運用強化**
ETEC 試験制度の内容品質の向上と普及を図る。
また、新たに教育事業本部をスタートさせ、人材育成・教育事業を推進する。
5. **組込み技術に関するフォーラム、セミナー、研修事業の実施**
技術高度化、組込み技術の普及啓発など、業界の底入れに注力するため、各事業を実施する。
 - ・ JASA 組込みフォーラムの全国展開
 - ・ ET（組込み技術）セミナーの定期開催
 - ・ ET 及び ET West におけるカンファレンス充実
6. **海外関連団体との連携強化推進（インド、台湾、中国 他）**
インド ESC、台湾 TCA と MOU を交わす当会として、より海外事業を積極的に進めるため、中国ソフトウェア協会（CSIA）と協定の準備を進める。
7. **技術研究活動、支部事業の活性化推進**
組込み技術に関する調査研究を委員会及びワーキンググループにて展開する。また、支部活動の活性化施策を経済産業局、団体などと連携して積極的に進める。
 - ・ 製品安全、セキュリティ関連分野の研究活動
 - ・ 組込みハードウェア関連分野の研究活動
 - ・ 上位設計手法及びプラットフォーム関連の研究活動
 - ・ 会員の特化技術・得意技術の紹介や会員相互の協業を促す各種イベントの定期実施
 - ・ 地域密着の支部独自事業の推進
 - ・ 支部間及び本部連携事業の推進
8. **関連機関・団体との連携事業強化**
関連団体との連携を密にし、相互補完、支援協力を通して、組込み技術の普及啓発を推進する。
9. **平成 21 年度（財）JKA 自転車等機械工業振興事業の実施**
10. **組込みソフトウェア産業活性化プラン（仮称）への積極的対応**
11. **各種助成事業（研修）の支援**
12. **一般社団化への準備作業**

組織図



II. 事業計画

1. 運営本部

(1) 組織の改革

今年度は、公益法人改革の一環として一般社団への移行を見据え、準備作業をスタートする。新に財務委員会を置き、当会財務の監督、見直しをする。また、国際委員会を位置づけ、既に協力協定(MOU)を締結しているインドESC、台北市コンピュータ協会については協力関係を強化し、今後MOUを締結する中国ソフトウェア産業協会(GSIA)については、協定の準備をすすめる。

教育事業本部を新設し、ETEC試験を取り込み、研修事業推進委員会、標準化推進委員会を新設し、研修事業の拡充など、人材育成に注力する。

技術本部に新設する技術企画委員会では、今後の組込み技術の方向性、課題等を精査し、高度化を推進する。以下に新組織案を示す。

平成21年度JASA事業本部組織表(案)

本部名	委員会等	WG	備考
運営本部	組織改革	公益法人改革	
		支部設立準備	
	広報	機関誌発行WG	
		HP管理	
	会員拡大推進		
財務 国際(交流)			
教育事業本部	ETEC試験	運営事務局	②補助事業
		問題作成	
		イベント企画	
	研修事業推進		*助成金等推進
標準化推進		*ETSS等	
技術本部	技術企画	技術交流・協業支援	
	安全性向上	製品安全	③補助事業
		セキュリティ	
	セミナー		①補助事業
	技術高度化	プラットフォーム	
設計			
ハードウェア			
ET事業本部	ET		
	ET West		
	ETロボコン		
本部事務局	北海道支部		
	東京支部		*東北・沖縄
	中部支部		
	北陸支部		
	近畿支部		*四国・中国
	九州支部		

- (2) 21年度 JKA(機械工業振興・公益事業振興)補助事業
- ① 地域振興・活性化のための「組込み技術」に関するフォーラムの全国開催
 - ② 組込みソフトウェア技術試験拡充のための支援事業
 - ③ 組込みシステムにおける機能安全に関する調査研究

2. 教育事業本部

今年度より、ETEC 試験制度を含め、人材育成・教育事業を推進するため、新たに教育事業本部をスタートする。

委員会構成としては、ETEC 試験委員会、研修事業推進委員会、標準化推進委員会を設置する。

(1) ETEC 試験委員会

- ① ETEC 運営事務局
 - ・ 代理店販売の拡大、再受験率アップ、アカデミックチャレンジ、受験者サポート向上等により受験者増を図る
 - ・ コスト見直による経費削減を図る
- ② 問題作成 WG
 - ・ 試験内容、実施方法等の再検討により、新たな試験問題作成を進める
- ③ イベント企画 WG
 - ・ ET、ET West 等イベント利用による ETEC の普及啓発
 - ・ 活用セミナー（年 4 回予定）の開催

(2) 研修事業推進委員会

- ① ハロープロジェクト（キャリア形成促進助成金を活用した訓練）
 - ・ 2009 年 4 月期新入社員向け訓練を開始。全 28 社 300 名強が訓練中（9 月末まで）
 - ・ 2008 年度策定した助成金を活用する新人育成訓練の評価と改善
 - ・ 新人以外の人材育成訓練への助成金適用の検討
 - ・ 育成パートナー制度（案）として、会員企業が助成金を活用した人材育成訓練を各地で展開しやすいように全国の研修会社と人材育成訓練実施について提携する
また、人材育成コンテンツ（教材）の認定を行う
- ② 人材確保のための研修事業
 - ・ 専門学校教員に対するセミナーの実施
 - ・ 専門学校の学生募集に関するセミナーの実施
 - ・ 専門学校生と会員企業とのリクルーティングに関するインフラの構築の検討についての事業を推進する

(3) 標準化推進委員会

組込みスキル標準である ETSS をはじめとした標準規格の活用と今後の展開について調査する。

3. 技術本部

本年度より新たに技術企画委員会を設け、今後の技術交流の方向性、課題等を精査し、高度化を推進する。また、会員企業間での協業を推進する。昨年度より引き続き、安全性向上委員会、セミナー委員会、技術高度化委員会を運営し、事業推進する。

(1) 技術企画委員会（新設）

定例的に、会員企業の特化技術・得意技術の紹介や会員同士の協業を促す各種イベントを推進する。

(2) 安全性向上委員会

① 製品安全 WG

2008 年度は、安全にかかわる代表的な規格をベースに安全設計の基礎的調査研究を実施した。特に組込み系に係りの深い機能安全に着眼して、セミナーや夏季学習会も開催し、問題点の認識と設計の基本について整理した。また、SIL3 取得製品等機能安全関連の製品調査を始めて実施した。

以上を踏まえて、2009 年度は、下記の活動を計画する。

No. 1 安全設計の事例研究

事業領域や製品・技術分野ごとの代表的な安全設計について、事例を調査・研究する。各委員が 1 案件を分担し、レポートを作成する。候補として考えられる安全設計は下記。

- * 補助事業
 - ・ 鉄道の安全設計
 - ・ 機械安全設計（労働安全）
 - ・ 電子機器の安全設計
 - ・ その他

No. 2 機能安全関連製品調査

昨年に続き、SIL3 関連製品の調査を実施する。各委員分担で調査を実施する。

No. 3 機能安全に関するネットフォーラムの運営

機能安全に関する Web サイトを JASA ホームページ上に開設し、情報発信や意見交換の場を提供するとともに、知見の収集・向上を進める（編集担当を委員から選出）

No. 4 安全解析・安全評価に係わる技法・手法の研究（2010 年度以降）

No. 5 安全設計技法・リスク低減手法の研究（2010 年度以降）

No. 6 安全性向上のためのモデル契約書の検討（2010 年度以降）

② セキュリティ WG

当 WG がこの 1 月に実施したアンケート調査によれば、組織の情報セキュリティ対策は、JASA 会員各社は重要と考え、その対策を講じているが、それを第三者が客観的に評価認定するような形にまではなっていない。客観的な第三者評価のためには、ISMS 認証などが既に制度として存在しているが、費用対効果の関係でほとんどの企業が二の足を踏んでいる。かつ、ISMS 認証のためには車内に専門要員を置かなければならないことも、小規模の組込み系企業の、組織面からの情報セキュリティ対策を難しくしている（いずれもアンケートより）。

そこで費用が少なく、かつ専門要員を置かなくてもよいような簡易な組織の情報セキュリティ対策が望まれる。その案の作成を、当 WG は 2009 年度の活動として行う計画とする。

(3) セミナー委員会

21年度は、各技術委員会/WGからの企画の吸い上げを積極的に行い、独自テーマ、専門領域に特化した内容で、昨年を上回る開催回数、集客増を図る。

また、今年度より、組込み関連技術の普及と地域振興を図るため、フォーラムの全国展開を実施する。

関西地区では、ET Westカンファレンスを併催するとともに、中部地区、九州地区などでの実施も企画する。

*補助事業

(4) 技術高度化委員会

① プラットフォーム研究会

次世代の共通基盤となる技術や考え方の探究を目的として活動してきた。今年度は3つのテーマで活動を考えている。

1) プラットフォームについての基本を考える。

イノベーションを駆動してきたプラットフォームの実績を解析しながら、プラットフォーム・リーダーの戦略を理解し、プラットフォームの基本を再確認する。また、今後のIT産業の再生の指針と思われるプラットフォームの活用法について検討する。

2) プラットフォームを選定し深堀を行う。

自動車やRT(ロボットテクノロジー)、携帯電話や次世代通信インフラ、ネットワークやサービス等の各分野のプラットフォームから3テーマを選択し、技術や戦略について深く調査を実施し、情報発信を行う。

3) トレンドや新規技術の動向について情報を共有する。

プラットフォームを基軸とした最新トレンド情報を話題とし、各メンバーの保有情報や問題意識を持ち寄ることで将来へ向けて時代の流れを掴む。

② 設計WG

3年目の今年は状態遷移表設計手法の設計手法書を完成させる。

1) 状態遷移表設計手法書作成

H19年度に作成した基本編とH20年度に作成した応用編の内容をまとめて状態遷移表設計手法書として作成する。内容についてはJISやISOに提言できるくらいのもをを目指す。

2) 設計手法についてのアンケートの実施

ET2009で3回目のアンケートを実施し、統計データを公表する。

③ ハードウェア研究会

議論してきたハードウェア技術要素のカテゴリ案をもとにハードウェア技術要素マップを完成させる。

1) ハードウェア技術要素マップの作成

昨年度より議論してきた「組み込みシステム技術者に求められる技術とは何か？」をハードウェア技術要素マップとしてまとめあげる。

2) 組み込みシステム技術者に求められる技術の明確化

ハードウェア技術要素マップをもとに、いま求められている組み込み技術を明確にすることで技術者のキャリアパスに役立てる。

3) 現在の技術者に不足している技術要素の明確化

また、ハードウェア技術要素マップから不足していると思われる技術を明確にし、技術者教育に役立たせる。

4. ET 事業本部

業界振興を目的に JASA 主催のイベント事業を積極的に展開する。
厳しい経済環境下での実施となるが、時代を捉えた新たな視点に立った企画・運営と内容の拡充を図ることとする。

ET では、最新の組込み関連情報が集結する専門技術展として、情報発信・交流、ビジネス機会拡大の場とする。

- ・運営体制を強化するとともに、出展サポート、来場サービスの充実を図る。
- ・地域自治体や海外機関、関連団体との連携を強化する。

ET West では、近畿支部はじめ、経産局、関連機関等との連携により、関西独自の特色を生かした展示企画とカンファレンスプログラムを構築する。

ET ロボコンでは、全国 7 地区（前回 5 地区）での地区大会と研修を実施し、広く若手技術者の教育を推進することとする。

(1) Embedded Technology 2009／組込み総合技術展の開催

世界最大級の組込み専門技術展&カンファレンスとして開催する。
デジタルコンシューマ、オートモティブ、ロボティクス、ユビキタス、インダストリ、インフラストラクチャ等の分野に対する組込み技術とソリューションを多くの技術者関係者に対して情報発信するとともに、産学官、関連機関との連携、地域活動の促進、関連市場の活性化を図る。

<開催要綱>

会 期	2009 年 11 月 18 日（水）～20 日（金）
会 場	パシフィコ横浜 展示ホール及び会議センター
後 援	横浜市、情報処理推進機構、アメリカ合衆国大使館商務部、 英国大使館貿易・対英投資部（以上、申請予定）
協 賛	日本貿易振興機構、科学技術振興機構、（財）日本情報処理開発協会、 （社）情報サービス産業協会、（社）電子情報技術産業協会、 （社）日本半導体ベンチャー協会、（社）情報処理学会、 高速信号処理応用技術学会、東京都立産業技術センター、 IT 検証産業協会、台北市コンピュータ協会（以上、申請予定）
入 場 料	1,000 円（事前登録及び招待状持参者は無料）
併催行事	ET ロボコンチャンピオンシップ大会
開催目標	出展社数：450 社・団体 来場者数：28,000 名（前回：26,892 名） カンファレンス受講者数：延 10,000 名

(2) ET West 2009／組込み総合技術展 関西の開催

関西唯一の組込み専門技術展&カンファレンスとして開催する。
関西地域の特色を生かした展示会運営とカンファレンス企画をもって、関連技術の高度化及び普及啓発を図り、近畿、中部地区はじめ広く西日本における関連産業の発展に寄与する。

<開催要綱>

会 期	2009 年 6 月 4 日（木）、5 日（金）
会 場	インテックス大阪 5 号館及び国際会議場
後 援	近畿経済産業局、大阪府、大阪市、情報処理推進機構
協 賛	関西経済連合会、組込みソフト産業推進会議、大阪商工会議所、 （財）関西情報・産業活性化センター、ネオクラスター推進共同体、 （社）トロン協会、近畿情報システム産業協議会、 （財）大阪科学技術センター、（財）大阪市都市型産業振興センター、

開催目標 (社) 電子情報技術産業協会関西支部
出展社数 : 100 社・団体 150 小間
来場者数 : 5,800 名 (前回 : 4,823 名)
カンファレンス受講者数 : 延 3,600 名

(3) ET ソフトウェアデザインロボットコンテスト (略称 : ET ロボコン) の実施

組込みソフトウェア分野の技術教育を目的に、ソフトウェアの開発技術を争うコンテストとして実施する。

今年は、東北・北海道地区、東海地区、関西地区、九州地区と、昨年までの関東大会を 3 地区 (北関東、東京、南関東) に分け、計 7 地区大会を実施する。また、各地区優秀チームによるチャンピオンシップ大会を 11 月の ET2009 と併催する。

<実施要綱>

技術研修 5 月～6 月

地区大会

東北・北海道地区 8 月 30 日 (日)、 北関東地区 9 月 6 日 (日)、

東京地区 9 月 5 日 (土)、6 日 (日)、 南関東地区 9 月 12 日 (土)、13 日 (日)、

東海地区 9 月 26 日 (土)、27 日 (日)、 関西地区 9 月 20 日 (日)、21 日 (月)、

九州地区 9 月 5 日 (土)、6 日 (日)

参加チーム数 353 チーム (参加予定)

チャンピオンシップ大会 11 月 18 日～19 日 (競技、ワークショップ)

Ⅲ. 支部事業計画

<北海道支部>

1. はじめに

北海道支部は、小規模ながら会員企業の強い結束のもと、組込みシステム技術の啓蒙普及に努め、業界の発展に寄与することを最大目標としている。

そのため、関係団体と共同してセミナー開催、異業種交流など市場開拓・協業化につながる活動展開することと、会員拡大の為の活動を行うこととする。

2. 事業活動

組込みシステム技術の啓蒙普及に努め業界の地位向上を目指す。

業界団体と連携し、中小企業向け補助金、金融等の情報提供および有効活用を提言し、企業の一層の体質強化に努める。

行政への提言を行うほか、会員相互および異業種との協業化を推進し、事業機会の拡大を図る。

(1) 組込みシステム技術の啓蒙普及のためのセミナーを開催する。

(2) 他地域の組込み関連産業の視察および情報交換を実施する。

(3) 国・地方自治体等の事業公募・補助金・融資などの情報提供を行い、会員の財政基盤の強化・拡大を図る。

<東京支部>

社団法人組込みシステム技術協会に協会名が改称されて四年が経ち、この四年で東京支部でも約 80 社の新規加入があり、会員数では 130 社の規模となり、協会全体の会員数の約半数を占めるようになり、東京支部への期待が高くなっている。

東京支部としては、本部事業への積極参加を強化し、また、開かれた協会事業を展開していきたい。

一方、組込み技術者の確保、育成など人的課題も多い。IPA ソフトウェアエンジニアリングセンターなど国や地方公共団体の組込みソフトウェア行政が活発化しており、当会もそれら団体と連携して役割を果たしていかななくてはならない。

組込み技術の普及を事業の柱として、支部体制の連携及び効率化を重視し、昨年度に引き続き、本年度も会員増強、人材育成、会員間交流活性化を推進していく。また、本部が推進する諸事業への支援、ETEC（組込みソフトウェア技術者試験）、ET2009（組込み総合技術展）など、全国の核となってリーダーシップを発揮していくことが望まれている。

1. 会議

(1) 支部総会 1回（5月）

(2) 常議員会 4回（5月、7月、11月、2月）

(3) 支部例会 3回（8月、12月、3月）

2. 事業

(1) 常議員会を推進役とする活動の推進

協会本部事業として実施される「組込みソフトウェア技術者試験」に対応した ETEC 推

進、技術者の交流を図る技術交流会などの事業を企画・推進し、支部長を推進委員長とする推進委員会を設置し支部役員が率先してこれにあたる。

(2) 東京支部常議員の本部委員会の委員への配置

東京支部常議員を協会本部の各委員会へ委員として配置し、本部事業を東京支部としてバックアップしていく。

(3) 技術交流・協業支援の場の活用

JASA ビジョンの実現の場として、本部の技術交流・協業支援 WG を活用する。

(4) 協会の情報の公開

本部理事会・支部常議員会の情報を一般会員の参加できる場（支部総会等）で公開し、協会の諸事業等に関する情報を一般会員へ周知徹底し、一般会員との情報に関する乖離を解消する。

(5) 人材高度化支援事業等の推進

組込み技術者育成について高い関心がもたれてきている。組込み分野においても技術の重要性、産業界の強い要請などから育成環境の整備を含めて積極的な取り組みが期待される。

実施にあたっては、関連団体（IPA/SEC、TRON 協会、TOPPERS、SESSAME など）と協調を図り、実りのある事業を実施していく。

(6) 支部例会の開催

支部会員の交流促進、協会事業の周知徹底、業界動向の情報収集等を目的に、支部例会を開催し活用していく。例会には、学識経験者をはじめ専門家を招聘するほか会員の中からの情報提供を重視する方法を取り入れていく。

(7) セミナー、研修事業、交流会の実施

- ・フレッシューズセミナーの開催
- ・ET セミナー等技術講演会の開催
- ・組み込技術者入門研修会の実施
- ・営業・管理者教育
- ・経営者セミナー及び交流会

(8) 協会本部事業へ支援協力

- ・ Embedded Technology 2009
（組み込総合技術展／パシフィコ横浜 11 月 18 日～20 日開催）
- ・平成 21 年度自転車等機械工業振興補助事業
 - ① 地域振興・活性化のための「組み込み技術」に関するフォーラムの全国開催
 - ② 組み込みソフトウェア技術者試験のための支援事業
 - ③ 組み込みシステムにおける機能安全に関する調査研究

(9) 産学官交流の推進

大学、研究機関等との連携を図ることで新分野への進出、新技術の習得など会員企業の活性化を図る。

(10) その他諸事業の推進

上記に属さない事業で、協会の発展につながる事業については積極的に対応する。
新春賀詞交歓会、通常総会、納涼祭、支部ボーリング大会、団体保険制度、全国システムハウス業厚生年金基金の普及啓発。

<中部支部>

米国発のサブプライムローン問題に端を発する世界同時不況の波は中部地域の産業にも大きな影響を及ぼしている。企業はどのような状況においても、安心、安全に対して細心の注意を払って、常に技術開発と、人材育成に心がけ、自ら率先して製造物責任、法令順守に取り組む姿勢が厳しく求められるようになってきた。

モノづくりの根幹を荷っている組込みシステム技術者は常に高い利便性と高度な完成度を備えた製品の開発を心掛けなければならない。中部地区は我が国の産業集積の中心地域として活力を維持してきた。今後もその地位を保ち続けていくためには、当地域の得意分野といわれる輸送機産業、産業機械産業、電子産業に蓄積されている技術とノウハウを積極的に活用し、研究開発機能の強化や、地元理工系大学との連携の促進を一層図っていく必要がある。

当支部では、組込システム技術業界の振興と会員相互の交流・啓発及び、地域産業経済の発展に資するため下記の事業を積極的に推進する。

1. 会 議

- (1) 総 会
- (2) 常議員会
- (3) 定例会（情報交換会）

2. ミドル会の開催

3. 見学会

4. 産業視察

5. 組込みシステム技術等の普及・啓発

- (1) 講習会、講演会、説明会の開催
- (2) 組込システム技術セミナー
- (3) 人材育成研究会

6. 会員交流事業

- (1) 支部会員企業案内の作成
- (2) ボーリング大会

7. 産学交流の推進

- (1) 情報系大学の見学と意見交換

8. 広報事業
9. 年金基金への参加推進
10. 支援協力事業
 - (1) 「エレクトロニクスショー」への協力
 - (2) 名古屋商工会議所事業への協力
 - (3) 中部経済産業局が行う組込みシステム技術に関連する事業への協力
 - (4) 中部地域イノベーションパートナーズシップへの協力
 - (5) 名古屋市工業研究所への支援協力

<北陸支部>

世界的な金融市場の混乱により、我国の経済も大きな影響を受け様々な業界へ波及しつつあり、IT業界も例外ではありません。

組込みソフトは、自動車、家電などのものづくり産業はもとより医療、福祉、教育等の社会基盤の構築及び経営の効率化に不可欠であり、その担い手としての当業界は、今こそ真価を発揮すべきと思われます。

このような状況のもと北陸支部においては、本部及び各委員会が実施する諸事業や行事の連携を密にして実施するとともに、組込みシステムによる地域特性を生かした産業の振興を図ることを目的に以下の事業を推進する。

1. 定例会議の開催と支部活動の活性化

年数回の定例会議を開催し、事業計画の策定・実施・進捗状況の把握を行うとともに、会員相互の交流と業界動向等情報の共有化を図る。

また、地元情報産業団体と提携し、産学官連携による産業振興策などの検討を行う。

2. 福井県 IT 革新検討会議への参加

福井県主催の「福井県 IT 革新検討会議」の会長（座長）として、「地域ものづくり企業との融合と地域の IT 推進」について、産学官で検討のうえ指針を作成する。

3. 次世代 IT 技術開発促進事業への参加

県内企業、ICタグメーカー、県内外の中小企業支援機関、大学研究機関研究者による「ICタグ活用セミナー&マッチング交流会」に参加する。

4. 地域イノベーションパートナーシップへの参画

地域 IT ユーザと地域 IT ベンダの連携・交流・協力の場として構築される地域イノベーションパートナーシップの福井県ローカルコミュニティへベンダ関連機関として参画する。

5. 会員企業のスキルアップ及び交流活動

セミナー・展示会（ET2009 等）への参加及び視察研修を実施し、会員技術者のスキルアップを図るとともに会員相互の交流を進める。

6. 展示会への出展

地域開催の展示会等に積極的に出展する。

(北陸交流技術テクノフェア・ふくい IT フォーラム 2009 等)

7. 広報活動

官公庁・業界団体への当会情報の提供等を通じての広報活動を推進する。

<近畿支部>

1. 総括

世界中に経済不況が浸透する中、わが国の経済情勢も益々混迷を極め、当業界を取り巻く環境も、泥沼の一途をたどっています。

しかもこの厳しい経済情勢は、今入り口に差し掛かったに過ぎません。

今何をやらなければならないかをしっかりと見据え、これからの経営に取組んで往かなければなりません。

支部活動に於きましては、会員企業の手助けに繋がる事を最優先に見据え、事業計画を推進して参ります。

各事業委員会の活動計画を中心に据え、会員相互の共通認識の元、受注拡大・人材確保・教育などの課題に積極的に取り組み、多くの会員が参画出来る場を提供し、支部会員企業の発展に寄与して参ります。

2. 支部活動

(1) 近畿支部総会 年1回(4月)

- ・平成20年度事業報告及び収支決算報告
- ・役員改選
- ・平成21年度事業計画及び収支予算報告

(2) 常議員会 年5回(5月、7月、9月、11月、2月)

支部事業計画に基づいた具体案の検討、審議を行う。

近畿経済産業局との意見交換会を、適宜開催する。

(3) 事業委員会

支部では3つの事業委員会を柱に、各委員長が中心となって年間事業計画を検討、実行する。各委員会はその目的をもって活動を推進する。

- ・総務・企画委員会(業界経営基盤の強化、推進支援を図る)
- ・技術・業務委員会(情報処理技術の高度化対応を図る)
- ・広報・マーケット委員会(市場の開発と知名度向上を図る)

(4) 本部との連携による活動推進

本部活動への参加、協力、支援を行う。また、本部の協力を得て支部の事業活動を活性化し、相互連携を推進する。

(5) 行政や他団体との連携・協調推進

他団体及び関連先との交流・連携を行い、会員企業に有益な情報を随時提供する。

- ・近畿経済産業局
- ・近畿情報システム産業協議会(KISA)
- ・関西電子情報産業協同組合(KEIS)

- ・大阪科学技術センター(OSTEC)
- ・ネオクラスター推進共同体

3. 委員会事業活動

(1) 総務・企画委員会

① 総務交流フォーラム（総務諸問題研究部会）

社管理部門担当者の人材育成を目的に3回程度開催する。
各社が抱える問題をテーマに取り上げ講師を招聘、討論を交えたセミナーとする。また、各社のネットワーク強化も図る。

② 賀詞交歓会

近畿情報システム産業協議会(KISA)加入8団体主催での開催は参加者が年々増加の傾向にあり、業界他団体企業との交流を更に広げる。

③ 新入社員ビジネスマナー研修

関西電子情報産業協同組合(KEIS)との共催で、新卒採用者のビジネスマナー研修を4月上旬に行う。新入社員としての基本マナーを習得することが出来、社員教育の一環を担う。

④ 会員交流会（ファミリークラブ）

全国システムハウス業厚生年金基金よりの補助事業として本年度も開催する。最近では音楽とゲームを楽しむ企画が定着、各社福利厚生事業として活用戴く。

(2) 技術・業務委員会

① 技術交流フォーラム

各社技術系担当者が会員会社を訪問。市場開発フォーラムの営業担当者と同様で、技術、営業それぞれの立場から各社の問題点を議論する。現場で必要とされている情報収集、他社との交流によるネットワーク作りを目指す。本年度は、4回開催予定。

② 会員月例会（近JASAフォーラム）

常議員会終了後、年5回開催する。
会員企業間の意見交換、情報交換を行い、参加者の交流を深めることを目的に行う。会員企業紹介・開発製品PRを行う他、他団体からの有益な情報等も提供する。

③ 技術セミナー

会員企業技術者の育成と技術力アップを目指したセミナーを開催、企業内ではできない研修の場を提供する。

本年度は、4回開催予定。

(3) 広報・マーケット委員会

① 開発交流フォーラム（ビジネス開発研究部会）

各社営業担当者が会員会社を訪問。企業が持つ優位点、抱える問題点等をテーマに話し合う。各社それぞれの営業戦略に結びつけ、営業促進を目指す。本年度は4回開催し、会員企業間のネットワークを強化する。

② 国内・海外視察研修

支部では「アジアのコンピュータビジネス」の実現に取り組んできた結果、東南アジア視察を行っている。本年度も継続事業とし、近隣諸国の

視察を検討する。

また、国内でも同業、異業種企業の施設訪問、研究機関の見学も実施する。

(4) ET West 2009 (組込み総合技術展・関西)

4年目となる組込み専門技術展示会及びカンファレンスの開催に取り組む。日程は6月4日・5日の2日間、会場はインテックス大阪を使用する。

(5) その他

① 他支部との交流

会員企業の事業強化を目指して、各支部との交流を推進する。

② 会員交流会

会員交流会を年に2回程度(夏の懇親会、忘年会)企画し、会員相互の交流を図る場を提供する。

③ 会員増強

継続して会員企業にご紹介をお願いする。また、ET WEST開催、組込み技術者試験実施を通じ、会員増強に繋げる。

④ 組込み技術者試験

ETEC試験を、会員企業での人材教育ツールとして役立てる他、業界団体に広くPRし試験の認知度を上げ、受験者の増強に繋げる。

<九州支部>

我が国経済は、金融危機による世界経済の減速や株式・為替相場の大幅な変動などにより、その影響は実体経済に及び、景気は厳しい後退局面に入りました。九州地域においても、自動車などの輸出型産業の大幅な減産にはじまり半導体や鉄鋼、化学等にも在庫圧縮や減産の動きが拡大しています。加えて消費マインドの冷え込みによる雇用情勢の悪化及び個人消費の低調など、経済は後退しているとみられております。

このような厳しい環境の中におきましても、当支部の会員企業としては「九州はひとつ」の理念のもと初心・原点に立ちかえり、この危機を「イノベーション(改革)・革新」の時期と捉え、これまで以上に九州地域産業の核・強みである自動車や半導体などの基幹産業を支え、その機器に搭載されるソフトウェアの高付加価値の技術向上や新製品の開発や人材の確保・育成及び技術力の強化が最も重要であると言えます。

今後、九州における組込みシステムの底辺拡大及び拠点化に向け、官公庁や大学・他団体等の関係各機関との有機的連携強化、情報の共有化及び人材育成を活発化させるとともに、会員企業の交流を通じ「組込みソフトウェア業」の更なる発展を図るため、次の事業を積極的に実施します。

1. 定例会及び事業活動

- | | |
|---------------------|------------|
| ・ 常議員会 | 年6回 (4月総会) |
| ・ 経営情報交流会 | 適宜 |
| ・ 各種セミナー | 適宜 |
| ・ 九州・国際テクノフェア等への出展 | 年1回程度 |
| ・ 組込みソフトウェア技術者試験のPR | 適宜 |
| ・ ETロボコン九州地区大会の充実 | 年1回 |

2. 広報活動

- ・ 年金基金活用によるスポーツ交流会（啓蒙普及）
- ・ 官公庁，他団体との情報交換
- ・ 支部ホームページによる情報提供

3. 共催・支援活動

- ・ 九州地域組込みシステム協議会（ES-Kyusyu）
- ・ NPO 法人 九州組込みソフトウェアコンソーシアム（QUEST）
- ・ 九州地域イノベーションパートナーシップ準備協議会